

県政調査報告書

平成30年10月11日

県議会議長 桐生 秀昭 殿

会派名 県政会神奈川県議会議員団

団長名 相原 高広

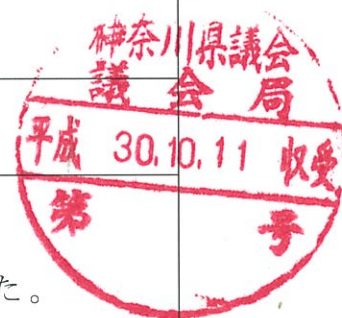
(署名又は記名押印)



県政調査を次のとおり実施しましたので、報告いたします。

1 調査議員	(調査団長) 池田 東一郎 (団員) 相原 高広 とうま 明 男 飯田 満 楠 梨恵子 高橋 延幸
2 調査目的	<p>網走市がWHOの「健康都市連合」に加盟し内外の健康都市との交流を深め、様々な健康都市づくりの知識とノウハウを学ぶ状況と、その知識を活かし、従来から市が進める「市民健康づくりプラン」に基づく、市民の健康寿命を延ばす施策を調査する。</p> <p>また、同市は空港からのアクセスが良く、夏季が冷涼など、スポーツトレーニングに最適な地の利を活かし、スポーツ合宿の受け入れを積極的に行い、スポーツで地域を活性化する取組事例や、スポーツを行う環境を活かし誘致した、日本で初となるスポーツ教育を主軸とした特別支援学校における障がい者教育を調査する。</p> <p>さらに、網走市は国内でも有数の農業・水産業</p>

	<p>の生産地であり、この産品を活用するため地元 に立地する東京農業大学と連携した一次産品の商 品開発や、大学から地域への人材供給、学生の地 元定着に取り組むなどの自治体と大学との連携を 調査するとともに、国土交通省北海道開発局が全 国に先駆けて北海道で実施する「シーニックバイ ウェイ」による、地域と行政が連携し、地域の魅 力を道でつなぎながら個性的な地域、美しい環境 づくりを目指す取組を調査することにより、本県 の今後の政策の推進に資することを目的とする。</p>
3 調査期間	平成30年7月18日～平成30年7月20日
4 調査地	北海道
5 調査内容	<ul style="list-style-type: none"> 調査内容は、別添報告書のとおり。 経費は、合計 1,092,294 円であった。



県政会神奈川県議会議員団 県政調査報告書



左から、
高橋延幸議員、飯田満議員、相原高広議員、水谷洋一網走市長、楠梨恵子議員、とうま明男議員、池田東一郎議員（調査団長）

平成30年7月18日（水）～20日（金）

県政調査日程表

調査日	調査地	調査個所及び調査内容
7月18日(水)	北海道網走市	<p>■ 網走市役所</p> <ul style="list-style-type: none"> ・ 市が加盟したWHOが提唱する「健康都市」を推進する「健康都市連合」について及び、市民の健康寿命を延ばす取組について ・ スポーツ合宿誘致の取組、合宿の受入れ体制整備によるスポーツ・ツーリズムの推進について ・ 自治体と大学との連携について
7月19日(木)	北海道網走市	<p>■ 日本体育大学附属高等支援学校</p> <ul style="list-style-type: none"> ・ 国内初であるスポーツ教育に重点を置いた支援学校の障がい者教育及び、網走市と連携した障がい者アスリートの育成について <p>■ 網走スポーツ・トレーニングフィールド</p> <ul style="list-style-type: none"> ・ 網走市におけるスポーツ合宿の中心的施設について <p>■ 東京農業大学オホーツクキャンパス</p> <ul style="list-style-type: none"> ・ 一次産品の6次産業化、地域への人材供給、卒業生の地元への定着など、自治体との連携について
7月20日(金)	北海道網走市	<p>■ シーニックバイウェイ</p> <ul style="list-style-type: none"> ・ 地域と行政が連携し、景観や自然環境に配慮し、地域の魅力を道路でつなぐシーニックバイウェイの取組について

1 網走市役所での調査

(1) 日程・場所・対応者

ア 日 時：平成30年7月18日（水）15時30分～17時00分

イ 場 所：網走市役所（北海道網走市南6条東4丁目）

ウ 対応者：網走市議会事務局次長 細川氏

同 企画総務部長 岩永氏

同 教育委員会社会教育部次長 岩本氏

(2) 網走市について

網走市は、北海道の北東部に位置しており、女満別空港（大空町）から車で約30分で市内に到着する。また、網走市を含めた18市町村をオホーツク地域といい、面積471km²の行政区域に人口36,473人、18,368世帯（※）が住んでいる。

また、天候は、北海道の中では雪も少なく冷え込みも穏やかであり、一年を通して晴天が多く、年間降水量や降雪量も少ない地域である。

なお、主要産業は、畑作と酪農を主体とした農業とオホーツク海、湖沼を対象とした漁業のほか、農水産加工業、そして観光業が柱となっている。

※平成27年国勢調査では人口38,966人、17,984世帯となっている。この乖離は、国勢調査には、網走刑務所の受刑者と住民票を移していない東京農業大学の学生数が含まれていることによる。

(3) WHO（世界保健機関）が提唱する健康都市について

ア はじまり

平成22年12月に水谷洋一現網走市長が就任し、まちづくりの方向として、健康で安心なまちづくりを掲げ、健康をキーワードに政策を展開することを表明した。

イ 健康都市とは

WHOは、健康を個人の責任としてのみとらえるのではなく、都市そのものを健康にすることを提唱している。その考え方に基づき、それぞれの都市の実情や抱えている課題を踏まえた健康都市の将来構想を持ち、それに向かって努力している都市のことをいう。

ウ WHO健康都市連合への加盟

WHO健康都市連合は、人も都市も健康になることを目標に活動して

いる国際的ネットワークである。網走市は、健康都市づくりのための知識とノウハウを学べる機会を得るため、平成24年7月に同連合へ加盟しており、これは、北海道内で初めて加盟が許されたものであった。

なお、加盟都市として承認された要因の1つとして、優先課題を分析した平成22年策定の保健医療計画である「網走市民健康づくりプランⅢ」が挙げられる。

エ 健康都市の取組

健康都市は、都市に生活する人々の身体的、精神的、社会的健康水準を高めるため、都市の様々な条件を整える必要があるという認識を持って、保健・医療とは無縁だった活動領域の人々にも深く関わってもらい、都市住民の健康を確保するための仕組みを構築する取組を行っている。

網走市では、「健康な市民」、「健康な経済」、「健康なまち」、「協働のまちづくり」というそれぞれの領域の事業を体系化することで、生活の質の向上に向けた施策の展開を計画的に進めている。

(4) 網走市民健康づくりプランⅢについて

ア 策定

健やかで心豊かに暮らす元気な網走市の実現をめざした「網走市民健康づくりプラン」の策定から（平成13年にプランⅠ、平成17年にプランⅡを策定）10年が経過し、人口減少と高齢化が進んできたことを踏まえ、網走市は、平成23年8月に「網走市民健康づくりプランⅢ」を策定した。

イ 概要

「網走市民健康づくりプランⅢ」は、平成20年度に策定された第5次網走市総合計画の保健・医療に関する個別計画として位置づけられており、健康寿命を延ばすために、どのような健康レベルにあっても、自身の生きがいを持つとともに、自身だけでなく家族や地域の人々もより良い暮らしができることを目指している。

同プランでは、「みんなの健康 元気なあばしり。」という将来像を、①「『まなぶ・みる・つなぐ』の質を高め、市民一人ひとりの健康づくりに寄り添い、はげまします。」、②「『暮らしを支え、暮らしをつくる』協働ができるプラットフォーム機能を整えます」という基本理念を定めている。

また、3つの基本目標に、それぞれ3つの基本方針が示されている。

まず1つ目は、「まなびで築く 地域に根ざした健康づくり」を基本

目標に、①だれもが元気なカラダをめざす 健康づくり、②ともに育ちあう 地域でのまなびと健康づくり、③地域に根ざす 「網走流」健康づくりを基本方針としている。

2つ目は、「健康づくりから 暮らしを支える地域保健」を基本目標に、①健康状態を定期的にチェックし、暮らし方を考える仕組みづくり、②健康情報を易しい言葉で優しく伝える仕組みづくり、③自立し、尊厳のある暮らしと仕事ができる支援体制づくりを基本方針としている。

3つ目は、「保健・医療・福祉を 市民とつなぐ地域医療」を基本目標に、①医療・保健と介護をつなげる仕組みづくり、②暮らしを支え、暮らしをつくる 地域医療体制づくり、③共通理解が行動へつながる地域医療のまなびの仕組みづくりを基本方針としている。

ウ 具体化

「健康づくりプランⅢ」に基づく保健医療に関する施策と、健康づくりを直接的、間接的に支える施策を一体的に進めるため、平成24年度からは、一次予防事業の強化として、健康づくり指導者ライセンス制度事業、ウォーキング&ランニング推進事業、生活習慣改善推進PR事業、VPDゼロ運動推進事業という、4つの事業の取組を始めている。

健康づくり指導者ライセンス制度事業は介護保険事業と、ウォーキング&ランニング推進事業は首都圏市民ランナー誘致促進事業やスポーツ・ツーリズム・プロモーション事業、スポーツ合宿誘致事業と、生活習慣改善推進PR事業は食育推進事業や行政マネジメント推進事業と、VPDゼロ運動推進事業は学校保健事業との連携の中で進めている。

また、本格的な人口減少、少子高齢社会が進んでおり、生活基盤の維持さえ困難な時代を迎える中で、平成30年度から平成36年度までを計画期間とする第6期総合計画を策定し、「豊かな自然に ひと・もの・まちが輝く健康都市 網走」を将来像としている。

なお、2年後には「健康づくりプランⅢ」の改訂も予定されている。

(5) 大学との連携について

網走市は、平成27年10月に、網走市人口ビジョンを基礎として、国のまち・ひと・しごと創生総合戦略及び北海道の北海道創生総合戦略の方針を勘案しながら、網走市の人口動態を見据え、地域特性を生かした積極戦略と調整戦略を同時並行的に進め、市民の住み良い環境を持続的に確保するための戦略「網走市まち・ひと・しごと創生総合戦略」を策定した。

なお、同戦略において、東京農業大学、日本体育大学附属高等支援学校

との連携が掲げられている。

■東京農業大学、日本体育大学などと連携し、みずから学び「明日をひらくひと」の育成

東京農業大学や日本体育大学附属高等支援学校と連携しながら、地域の教育力を強化し、豊かな人材を創出するとともに、障がい者スポーツへの理解を深め、障がい者や高齢者にとって優しいまちづくりと、スポーツ振興による市民の健康増進を目指します。

●学校設立などに関する支援

開設支援、教育実習生の研修受入、特別支援教育体制の強化、職場実習受入事業所への支援など

●障がい者教育・雇用の支援

技能習得支援、障がい者雇用が可能な事業所の調査・分析、就労指導体制の構築など

●日本体育大学附属高等支援学校による市民スポーツ活動への支援

学校開設を契機として、地域のスポーツ団体と連携した活動を支援することで、市民のスポーツへの関心・意欲を高め、生涯にわたる「健康増進」を図る。

35

(出典：網走市提供資料)

(6) スポーツ・ツーリズムについて

ア スポーツ・ツーリズムの推進

網走市では、スポーツ合宿の誘致によって、スポーツ・ツーリズムの推進に繋げている。

イ 合宿で利用される主なスポーツ施設

合宿で利用される主なスポーツ施設は、①網走スポーツ・トレーニングフィールド、②網走市総合体育館、③網走陸上競技場、④網走市民健康プール・西地域プール、ランニングコースである。

ウ 実績

平成29年度の実人員は1,985人、延べ宿泊数は17,348泊、経済効果は6億4,425万1,000円である。

なお、平成29年度においては、東日本実業団陸上競技選手権大会、ゴールデンゲームズin延岡、全日本実業団陸上競技選手権大会、東日本実業団対抗駅伝競技大会、ジャパンラグビートップリーグ決勝といった各種大会に出向き、主要チームに合宿誘致活動を行った。

受入内容は、トレーニング施設のスケジュール調整、女満別空港とホテル間の送迎の手配及び経費負担、ホテルと練習場間の送迎の手配及び経費負担、練習会場使用料の免除等である。

なお、平成30年度予算では、網走市補助金として950万円の予算措置

が行われている。

エ 網走スポーツ・トレーニングフィールド

網走スポーツ・トレーニングフィールドは、網走市におけるスポーツ合宿の中心的施設であり、平成2年6月に供用を開始している（投てき練習場は平成20年に供用を開始）。

○ 施設等の概要

- ・ 事業年度 昭和63年度～平成4年度（5カ年計画）
バーベキューコーナー、トイレ等を平成5年～平成8年度に建設
投てき練習場を平成19年度に建設
- ・ 事業費 36億円
(起債27.5億円、道補助金2億円、一般財源6.5億円)
- ・ 用地面積 38.7ha（東京ドーム約9個分）
- ・ 施設概要 ラグビー場1面、サッカー場2面、多目的広場4面
(計7面、ラグビー、サッカーで利用可)
テニスコート16面、アーチェリー場14的、ランニングコース
ローラースケート場、ゴーカートコース、おもしろ自転車コース
パークゴルフ場、幼児公園、センターハウス1棟、駐車場4か所
- ・ 管理運営 平成20年度から指定管理者制度を導入
1,479万2,000円
芝生管理は別途委託 4,141万5,000円
使用料収入（平成29年度） 656万円

○ 前年度の利用状況等（延利用者数）

平成25年度 60,763名、平成26年度 59,612名、平成27年度 54,416名、平成28年度 64,075名、平成29年度 54,144名

(7) 主な質疑応答



(健康都市連合について)

Q：健康都市連合は、ある程度の加盟期間経過後に、再認証するかどうかのチェックはあるのか。

A：最近の状況は把握していないが、加盟時には特にそのような説明はなかった。

(健康に対する取組に係る情報共有について)

Q：神奈川県では、大和市が健康に関して力を入れているが、情報交換等はしているのか。

A：当市は、AEDをコンビニに設置している。当初は、公共施設に置いていたが、市役所も含めて17時、18時に閉まってしまう。例えば、朝に散歩されている方や夜にジョギングをされている方に何かあったときに対応ができなかった。実は大和市がコンビニへのAED設置の取組を実施しており、情報共有をさせてもらい、参考とさせてもらった。

(平均年齢について)

Q：網走市における男女の健康寿命は何歳なのか。

A：古いデータだが、平成23年の網走市の健康寿命は、男性が75.7歳、女性が79.5歳である。

(スポーツ合宿について)

Q：宿泊先のホテルはどこにあるのか。

A：ラグビー場として使用可能な7面に対して、泊まれるホテルが7つある。

Q：合宿に来るのは、夏場が多いと思うが、ホテルの経営は問題ないのか。

A：冬季期間は、流氷観光で観光客がかなりいるので、うまくすみ分けられてる。網走市のウィークポイントは、春と秋である。春は、実は流氷が明けて、ウニや毛ガニが一番おいしい時期である。秋も、山の物などがある。食べ物を目指す観光客は、春と秋が多いが、この時期は入り込み客数が少ない。そこが課題である。

(網走スポーツ・トレーニングフィールドについて)

Q：施設を設置するに当たって、どのような議論が交わされたのか。

A：私は確たる議論の場にはいなかった。ただし、当時の総務部長から、観光事業がなかなか伸びていかないことから、合宿でアスリートを呼ぶために、まず宿をいっぱいにしたいという議論があったと聞いている。

また、網走市＝刑務所というイメージを、スポーツのイメージにしたいということで、随分と頑張ったとは聞いている。

2 日本体育大学附属高等支援学校での調査

(1) 日程・場所・対応者

ア 日 時：平成30年7月19日（木）9時50分～11時20分

イ 場 所：日本体育大学附属高等支援学校
（北海道網走市大曲1丁目6番地1号）

ウ 対応者：日本体育大学附属高等支援学校校長 島崎氏
同 副校長 竹原氏



左から、3番目が島崎校長

(2) 日本体育大学附属高等支援学校について

日本体育大学附属高等支援学校は、平成29年4月、学校法人日本体育大学が、私立大学の附属学校としては全国で初めて、北海道網走市に開校した知的障がいのある男子生徒を対象とした学校である。

日本体育大学の歴史と伝統で培われたスポーツ教育を主軸に、人に触れ自然に触れる体験を通し、生徒にとって生涯の財産となる豊かな人間性を育む教育を行う高等支援学校である。

現在、全校生徒は41名おり、34名が寄宿舎生活している（1学年男子40名、定員120名）。なお、神奈川県からは、3名の生徒が入学をしている。

(3) 沿革概要

日本体育大学附属高等支援学校は、平成 24 年（2012 年）に網走市が日本体育大学を訪問し、候補地として提案したことから始まった。

その後、様々な手続きを経て、工事に着工し、平成 29 年 4 月に開校した。

沿革

日本体育大学の新たな挑戦（共生社会の実現に向けて） 2014年 学校法人日本体育大学 理事会決定

創立125周年を迎えた学校法人日本体育大学は建学の精神「體育富強之基」を掲げ全国に体育・スポーツ指導者を輩出してまいりました。

スポーツ文化や国民の体力向上にくわえ人々に希望と勇気を与えてきたことも日体大の誇りでもあります。

平成26年度からは「医療も日体大のフィールド」とし保健医療学部を設置しました。

一方、スポーツ基本法が施行され障がい者のスポーツ教育の必要性も生じ日体大は附属高等支援学校を世に先駆けて設置することになりました。スポーツ教育を基軸に労作（農業）教育と情操（芸術）教育を行う個性的な学校です。共生社会への新たな日体大の挑戦であります。

2012. 8. 8	網走市、学校法人日本体育大学訪問・候補地提案
2013. 2. 22	学校法人日本体育大学理事・評議員会で、特別支援学校高等部の創設計画決定
2013. 4. 1	網走市及び学校法人日本体育大学に準備室を設置（開校事務開始）
2014. 4. 7	学校法人日本体育大学「北海道学園」（仮称）網走事務所開設
2015. 4. 1	東急建設・早水組工事着工
2016. 5. 30	竣工式挙行〔校舎・寄宿舍完成・内覧会の実施〕
2016. 6. 20	北海道知事認可〔日本体育大学附属高等支援学校に校名決定〕
2017. 4. 1	日本体育大学附属高等支援学校開校
2017. 11. 19	開校式典
2018. 2. 1	NARS（ナース：屋内走路）完成式典

（出典：日本体育大学附属高等支援学校提供資料）

(4) 教育の柱

日本体育大学附属高等支援学校は、スポーツ教育、労作教育、情操教育を3つの教育の柱とし、知的障がいのある男子生徒を全国各地から広く募集し、様々な教育活動を通して、また色々な生徒たちが集まった寄宿舍生活を通して青春を謳歌し、自己実現や自立ができる生徒を育成している。

スポーツ教育では、体育、部活動を通してたくましい体や健やかな心を育むことを目的とし、授業を行っている。

労作教育では、作業学習、就労実習を通して働くことの楽しさ、尊さを培うことを目的に農業（トウモロコシ、カボチャなどの栽培）、園芸（トマト、ズッキーニなどの野菜や果物等）、流通サービス（ビルメンテナンス、農作物運搬・配布・販売）の授業を行っている。

情操教育では、豊かな感受性を養い充実した生活を送る目的で、音楽や

美術などの芸術の授業を行っている。

(5) 教育施設

教育施設としては、①寄宿舍、②校舎、③グラウンド、④屋内走路（NARS）、⑤郊外実習場 網走湖畔園地（借地農地）、⑥園芸用地ーがある。

(6) 寄宿舍日課

寄宿舍の日課は、6時30分の起床から始まり、8時40分からの授業、15時35分の下校（部活時は除く）、18時の夕食、22時の就寝などといったものである。

寄宿舍日課	
6:30~	起床（布団たたみ、歯磨き、洗面、着替え、洗濯物取り込み）
7:20~	朝食準備（配膳当番が準備）
7:30~	朝食
8:00~	登校準備
8:20~	登校（土日、祝日は部活又は自由時間）
8:40~	学校授業
12:10~	昼食準備
12:20~	昼食
13:10~	学校授業（土日、祝日は部活又は自由時間）
15:35~	下校
17:00~	部活終了後下校（入浴、洗濯）
17:50~	夕食準備（配膳当番が準備）
18:00~	夕食
18:30~	歯磨き、清掃（自室、廊下、浴室、食堂、玄関など）
19:00~	自由時間
21:00~	学習時間（宿題、読書、明日の準備など）
21:30~	就寝準備・消灯（歯磨き、洗面、着替え）
22:00~	就寝

（出典：日本体育大学附属高等支援学校提供資料）

(7) 主な質疑応答

（寮について）

Q：寮の先生は、寮専門の先生なのか。

A：その通りである。寄宿舍指導員という立場である。

Q：寮費はいくらかかるのか。

A：月額7万円であるが、低所得世帯への補助制度があり、ほとんど負担のない場合がある。

また、授業料についても国や北海道からの補助制度があり、さらに、

入学金は網走市からの補助金があり、ほとんど負担なく、学校生活を送ることができる。

Q：個室はあるのか。

A：生徒の部屋は、2人一部屋である。個室は各階にそれぞれ1つある。それは、インフルエンザ等の個別対応のために使用する。

(8) 施設視察の様子



(第二体育館)



(屋内走路 (NARS))



(教室)



(寄宿舍)

3 網走スポーツ・トレーニングフィールドの視察

(1) 日程・場所・対応者

ア 日 時：平成30年7月19日（木）11時35分～11時55分

イ 場 所：網走スポーツ・トレーニングフィールド
（北海道網走市呼人705番地）

ウ 対応者：網走市教育委員会社会教育部次長 岩本氏

(2) 網走スポーツ・トレーニングフィールドについて

概要については、6ページの次の項を参照。

「エ 網走スポーツ・トレーニングフィールド」

(3) 施設視察の様子

網走市役所において、概要説明を前日に受けた後、施設の現地視察を行った。



4 東京農業大学オホーツクキャンパスでの調査

(1) 日程・場所・対応者

ア 日 時：平成30年7月19日（木）14時25分～15時40分

イ 場 所：東京農業大学オホーツクキャンパス
（北海道網走市八坂196番地）

ウ 対応者：東京農業大学生物産業学部長 吉田氏

同 オホーツクキャンパス事務部長 藤枝氏

同 オホーツクキャンパス事務部次長 平出氏



(2) 東京農業大学オホーツクキャンパスについて

東京農業大学は、今年で創立127年目であり、生命、食料、環境、健康、エネルギー、地域再生を標榜しており、実学主義を理念としている。

現在、世田谷キャンパス、厚木キャンパス、オホーツクキャンパスの3つのキャンパスがあり、6学部、23学科、約1万3,000人の学生が在籍している。

オホーツクキャンパスは、網走市に平成元年に開設された。今年で開学30年を迎え、学部全体としては30年間定員割れをしていない。同キャンパスには、生物産業学部が設置されており、北方圏農学科、海洋水産学科、

食香粧化学科、自然資源経営学科の4学科で構成されている。

なお、学生については、北海道外の高等学校出身の学生が9割程度という高い割合を占めており、神奈川県からは毎年30名程度が入学している。

○ 平成30年度 東京農業大学生物産業学部入学者数

・男女別入学者数

学 科		男子	女子	合計
北方圏農学科	人数	73	31	104
	%	70.2	29.8	100
海洋水産学科	人数	74	15	89
	%	83.1	16.9	100
食香粧化学科	人数	32	52	84
	%	38.1	61.9	100
自然資源経営学科	人数	82	12	94
	%	87.2	12.8	100
学部合計	人数	261	110	371
	%	70.4	29.6	100

・エリア別入学者数

エリア	人数	%
北海道・東北	65	17.5
関東	209	56.3
中部	55	14.8
近畿	20	5.4
中国	4	1.2
四国	3	0.8
九州	9	2.4
その他（帰国子女等）	6	1.5
合計	371	99.9 (※)

(※) 四捨五入の関係により100%となっていない

(東京農業大学からの説明を基に作成)

(3) 地域連携

地域の伝統的文化や地域の魅力を活かした社会の創生のため、①教育、研究等を通じての人材育成「ひとづくり」、②環境保全・地域づくり等を通じての地域産業資源を利活用する「ものづくり」、③地域マネジメントの計画・政策等をコーディネートする「ことづくり」の3つの視点から、東京農業大学は、社会に貢献することとしている。

(4) オホーツクキャンパスにおける地域連携の事業例

ア オホーツク網走マラソンボランティア

社会人基礎力の必要性を体験するため、平成27年4月から継続的にオホーツク網走マラソンにボランティアとして参加している。

連携事業その1「オホーツク網走マラソンボランティア」2015年～（4年目）

【オホーツク網走マラソン2018】
開催日：2018年9月30日（日）
主催：オホーツク網走マラソン実行委員会、網走市
後援：北海道開発局網走開発建設局、
北海道オホーツク総合振興局、
協力団体：網走刑務所、大空町、東京農業大学、
網走ロータリークラブ、網走西ロータリークラブ、
網走ライオンズクラブ、網走佳ライオンズクラブ、
網走市校長会、網走市教員会、
北海道LPガス協会網走支部網走分会、
例いしほら、オホーツクバザール㈱、
若原ふとん店、興伝書局、網走交通㈱、
オホーツク産直市場がにや、
陸上自衛隊美幌駐屯地、
航空自衛隊網走分屯基地、郵便局網走部会



社会人基礎力とマラソンボランティア

アクション + シンキング + チームワーク = 成功

- グループ作成
- グループ内での役割分担
- 自分たちのエイドステーションの目的は？
- 自分自身の目的は？

前記に読み出す力 【アクション】	読解力	聴解力	視覚的認知力	空間的認知力	図表の読み取り力	情報の整理力	情報の活用力	情報の伝達力	情報の共有力	情報の活用力	情報の共有力
読解力	読解力	聴解力	視覚的認知力	空間的認知力	図表の読み取り力	情報の整理力	情報の活用力	情報の伝達力	情報の共有力	情報の活用力	情報の共有力
聴解力	聴解力	聴解力	聴解力	聴解力	聴解力	聴解力	聴解力	聴解力	聴解力	聴解力	聴解力
視覚的認知力	視覚的認知力	視覚的認知力	視覚的認知力	視覚的認知力	視覚的認知力	視覚的認知力	視覚的認知力	視覚的認知力	視覚的認知力	視覚的認知力	視覚的認知力
空間的認知力	空間的認知力	空間的認知力	空間的認知力	空間的認知力	空間的認知力	空間的認知力	空間的認知力	空間的認知力	空間的認知力	空間的認知力	空間的認知力
図表の読み取り力	図表の読み取り力	図表の読み取り力	図表の読み取り力	図表の読み取り力	図表の読み取り力	図表の読み取り力	図表の読み取り力	図表の読み取り力	図表の読み取り力	図表の読み取り力	図表の読み取り力
情報の整理力	情報の整理力	情報の整理力	情報の整理力	情報の整理力	情報の整理力	情報の整理力	情報の整理力	情報の整理力	情報の整理力	情報の整理力	情報の整理力
情報の活用力	情報の活用力	情報の活用力	情報の活用力	情報の活用力	情報の活用力	情報の活用力	情報の活用力	情報の活用力	情報の活用力	情報の活用力	情報の活用力
情報の伝達力	情報の伝達力	情報の伝達力	情報の伝達力	情報の伝達力	情報の伝達力	情報の伝達力	情報の伝達力	情報の伝達力	情報の伝達力	情報の伝達力	情報の伝達力
情報の共有力	情報の共有力	情報の共有力	情報の共有力	情報の共有力	情報の共有力	情報の共有力	情報の共有力	情報の共有力	情報の共有力	情報の共有力	情報の共有力

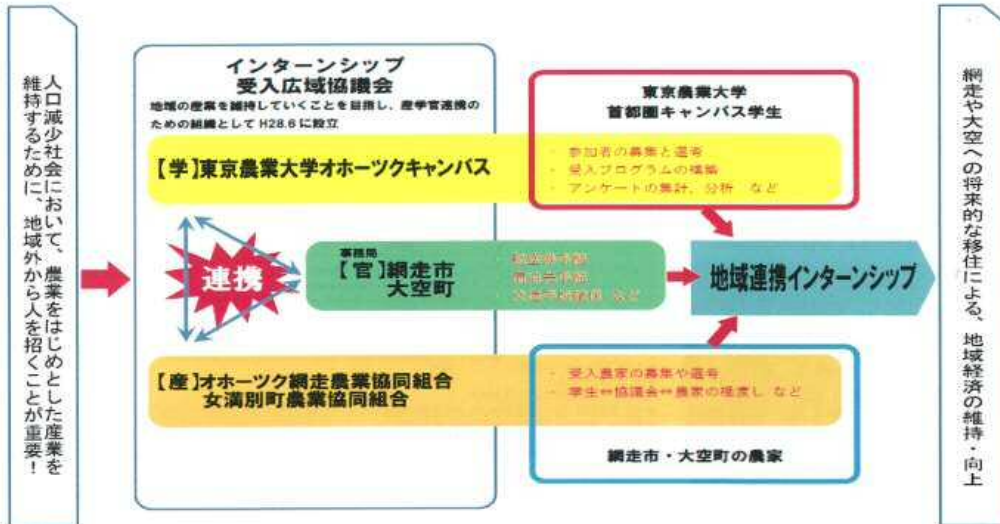
- エイドステーションの運営
- 困った状況を伝える
- スムーズな運営のための協力依頼
- 自己満足だけでなく、問題解決のための柔軟な対応
- 開始時、準備時などの様々な状況判断に基づく対応
- 各自の役割に基づき運営
- 困難な状況下でも目的達成のための工夫 など

社会人基礎力の必要性を体験する
当日に感じた不満や失敗が社会人基礎力を
駆使することで解決できることをふりかえる

イ 地域連携インターンシップ

人口減少社会において、農業をはじめとした産業を維持するために、地域外から人を招くため、産官学が連携し、平成28年から首都圏キャンパスの学生を対象に第一次産業のインターンシップを受け入れている。

連携事業その2 「地域連携インターンシップ」 2016年～（3年目）



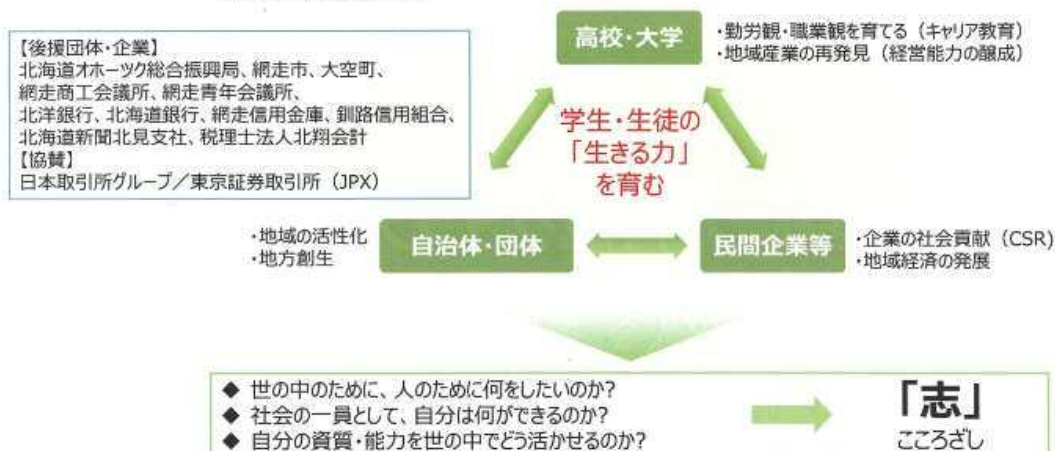
(出典：東京農業大学提供資料)

ウ J P X 起業体験プログラム

起業・創業に係る株式会社の設立、経営する模擬体験等を通じ、自ら学び・自ら考える力などの「生きる力」を育むとともに、地域への起業家マインドの普及啓発を行うことを目的に、平成27年から平成29年まで、J P X 起業プログラムを実施した。

連携事業その3 「JPX起業体験プログラム」 2015年～2017年

- ▶ 起業・創業に関わる株式会社の設立、経営する模擬体験等を通じ、自ら学び・自ら考える力などの「生きる力」を育むとともに、地域への起業家マインドの普及啓発を行うことを目的として行うもの。
- ▶ 東京農業大学北海道オホーツクキャンパス、北海道網走桂陽高等学校、北海道東深琴高等学校の学生・生徒が自治体や起業家教育のノウハウを有する地元民間企業の協力を得て実施。
- ▶ 北海道オホーツク地区（網走市）のプロフェッショナルとも連携・実践していくコンソーシアム型の「教育プログラム」として展開する。



(出典：東京農業大学提供資料)

(5) 卒業生の進路状況

平成30年3月の卒業生の進路状況によると、北海道外の高等学校出身の学生が9割程度入学するが、そのうち北海道内に就職する卒業生は310名のうち44名であり、3名が網走市内に就職している。

		卒業生の進路状況																				
		前期		後期		その他						合計										
		男	女	計	男	女	計	就職・研究注	留學中	開校中	就職活動中	その他	男	女	計							
1	北海道専門学校	52	27	85	3	2	5	1	1					15	10	1	3	4	71	42	115	
2	北海道短期大学	10	10	20	1	1	2	1	1										2	14	16	
3	食品専門学校	15	11	24	1	1	2							1	1	1	1	1	2	42	60	102
4	女子大学専門学校	17	17	34	1	1	2							1	1	1	1	1	16	20	36	
合計		94	65	159	6	5	11	3	3					18	13	4	5	11	79	136	215	

※「転入卒業生」「アルバイト」「留學中(予定)」「その他(予定)」「進學希望」はその他に記入。

		就職の内訳														
		①網走市内	②網走管内(江刺含む)	③網走以外の道内	道外計	道外	無職希望	合計								
		男	女	計	男	女	計	男	女	計	男	女	計	男	女	計
A1	農業				2	2	4	1	1	2	3	3	6	18	1	21
	うち道内農業				1	1					1	1	2			2
A2	林業										1	1	2			2
	うち道内林業															
B	漁業				1	1		1	1	2	1	1	2			2
	うち道内漁業															
C	鉱業・採石業・砂利採取業															
	うち道内															
D	建設業	1	1	2	1	1	2	2	2	4	2	2	4			4
	うち道内															
E	製造業						3	2	5	1	1	2	46	23	69	
	うち道内											1	1			2
F	電気・ガス・熱供給・水道業									1	1					2
	うち道内															
G	情報通信業											11	4	15		15
	うち道内															
H	運輸業・郵便業										4	2	6			6
	うち道内															
I	卸売業・小売業				1	1	2	2	4	1	1	2	16	26	28	
	うち道内													1	1	2
J	業種未定・その他				2	2	4	1	2	3	2	2	6			9
	うち道内															
K	不動産業・物品賃貸業															
	うち道内															
L	情報関連・専門技術サービス業	1	1	2			1	1	2	1	2	3	3	4	7	
	うち道内															
M	建設業・教育サービス業										16	8	24			24
	うち道内										1	1	2			2
N	建設業サービス業・飲食業						1	1	2	1	2	3	3	4	7	
	うち道内															
O	教育・学習支援業				2	2	4	1	1	2	2	4	2	4	8	
	うち道内															
	うち公務員				1	1	2	1	1	2	2	4			6	
P	医療・福祉						1	1	2	1	1	2	4	3	7	
	うち道内															
	うち公務員															
Q	教育サービス業				1	1	2	2	4	4	7	6	13			13
R	サービス業	1	1	2			2	2	4	2	11	9	13			13
	うち道内															
S	公務						1	1	2	13	1	14			14	
T	白眉学院の進路															
	うち道内															
合計		1	1	2	3	4	12	20	6	26	20	18	46	266	164	430

※日本標準産業分類(第4版改定)による。

(出典：東京農業大学提供資料)

(7) 主な質疑応答



(学生へのPRについて)

Q：都道府県別入学者数を拝見すると、関東からの学生が多いが、どういった学生が農業に興味を持って入学するのか。

A：農学の楽しさを極力PRするようにしてきた。それは、高校生もさることながら、親へのPRも大事である。現在、進学を希望する際には、親と子どもで話し合っ決めて決めることが多い。本学部は、なおさら遠隔になるので、本人が行きたいと言っても、親の反対があればそれで止まってしまう。このため、親も説得をして、本人にも農学の魅力を伝えるのが、我々に課せられた大きなミッションとなる。農学部＝畑を耕してるというイメージを払拭するようなPRをする。

また、逆にどの時代にも、どこの地域でも、農学系の大学への進学希望者は少数でも必ずいる。そういう方々にも、丁寧に農学の面白さや楽しさをきちんと宣伝している。

そして、農学系の就職は、ものすごく安定しているということ。私は、「景気が悪くなったら家や車を買うのを控えるだろう。ところが、皆さんの家庭では、景気が悪くなったら食事が3食から2食になりますか」と学生に聞くと、「なりません」と回答がある。そして、なぜなくならないのかを聞くと、「食べないと生きていけない」と回答がある。まさにそこである。食品業界は景気に左右されない業界である。そこに東京農業大学は人材を輩出してるので、比較的安定した就職先がある。この点も、ものすごくPRをしている。

(農学部の特徴について)

Q：農学部がある大学は何校もあるが、学校ごとに特色や雰囲気は異なるものなのか。

A：基本的には、それほど変わりはないと思う。ただし、本学の場合は、実学を理念としているので、実験・実習・演習のカリキュラムは多いはずであり、大きな特徴である。

本学で言うと、世田谷キャンパスはラボでの授業が多く、実験・実習のある学科は外、例えば、伊勢原の農場へ行く。

一方、オホーツクキャンパスは、キャンパスと実習場所が一体となっている。

(入学者の出身高校について)

Q：入学する高校生の状況はどうか。特に東京農業大学は附属校が多いが、どのような状況なのか。

A：3,000人が東京農業大学に入学しているが、系列校出身者は120人程度である。東京農業大学の系列校は、多くが他大学へ進学している。

全国の農業高校の生徒に入学してもらいたく、推薦入学によって入学してもらっている。

最近では、女子の入学率が高くなっており、50パーセントか、学科によっては、女子が多いこともある。オホーツクキャンパスでは、この網走の環境を売りにして、この環境を受け入れる学生に向けて、PRを行うことで、定員割れもせず中退も少ない。

(農業への就職について)

Q：北海道内で、農業に就く卒業生はいるのか。

A：いきなり新規就農という卒業生は、ほぼいない。こちらで農業をするためには、いろいろと機材を買ったり、ある程度の蓄えがないと始められない。すぐに農業をやりたい場合は、農業生産法人といった所に社員として入社するパターンである。

本州は、後継者不足のため、いくらでもアテンドをするが、北海道は、やはり大規模農業で収入があるので、すぐそこを引き継ぐことはなかなかない。北海道は、子どもが引き継ぐ形のほうが多い。

Q：先日、網走市長と話をしたときにも、今農業を行っているのは生き残った強い者が多いことを聞いた。

A：網走市近辺では、本州の農業と異なり欧米的な大規模な農業を行って

いる。そこが本州との大きな違いである。しかし、現在は少子化の問題もあり対策を行いだしたところである。

なお、現在、東京農業大学への要望として多いのは、地方創生のことである。

東京農業大学に対して力を貸してほしい、知恵を出してほしいという要望は多数受けている。

例として、大空町からの相談として、刑務所の農場の活用について、相談を受けている。同様なものは多数ある。

その他に、近辺の高校から、東京農業大学に優先して入学させてくれないかという要望がある。その理由は、子どもたちが東京、札幌へ進学するのではなく地元に残したいということがある。一度、転出してしまうと地元に戻らないだけでなく、地元の両親を呼び寄せるので、人口流出が加速することがあるためである。

Q：東京農業大学を卒業後、農業に就労しない場合がある。特に畜産の後継者がいないことがある。対策は何があるのか。

A：そのように導きたいと思っているが、最近では親の意向が強く働く。子どもが働きたいと考えても、親が止める状況である。親は、首都圏の大企業へ入れたがる。また、畜産に関して学んでいる学生の進路の選択肢として、ヒトの不妊治療（胚培養士）がある。その技術者へ就く学生が増えている。そのため、大学へ進学したら農業の6次産業化を行うなど、新たな視点を持ち、農業を行うことを実施してほしい。

5 国土交通省での調査

(1) 日程・場所・対応者

ア 日 時：平成30年7月20日（金）9時15分～11時30分

イ 場 所：国土交通省北海道開発局網走開発建設部
（北海道網走市新町2丁目6番地1号）
メルヘンの丘ビューポイントパーキング
（北海道網走郡大空町女満別昭和96番地）
道の駅 メルヘンの丘めまんべつ
（北海道網走郡大空町女満別昭和96番地）

ウ 対応者：国土交通省北海道開発局網走開発建設部

特定道路事業対策官 神氏

同 道路計画課道路調査官 小川氏

同 道路計画課道路計画専門官 高田氏

(2) シーニックバイウェイについて

1990年代にアメリカで制度化された「シーニックバイウェイ」の「地域発案・主役」、「行政が黒子」、「地域資源の発掘」等の精神を受け継いだ日本独自の仕組みである。

その取り組みは、“みち”をきっかけとして、地域の人たちが主役となり、行政や企業などと連携しながら、広域的に、①「美しい景観づくり」、②「活力ある地域づくり」、③「魅力ある観光空間づくり」により、愛着と誇りの持てる地域を実現するものである。

(3) シーニックバイウェイ北海道について

ア シーニックバイウェイ北海道について

シーニックバイウェイ北海道は、みちをきっかけに地域と行政が連携し、美しい景観づくり、活力ある地域づくり、魅力ある空間づくりを目指す取組である。

平成17年度より取組を開始し、平成30年4月1日現在、13の指定ルートと1つの候補ルートがあり、約400団体が活動をしている。

イ 主な活動内容

美しい景観づくりでは、地域の活動団体が、道路沿線に花を植えたり、清掃活動などによって、美しい景観の維持や改善を行っている。また、慣れ親しんだ景観を見直す景観診断を行ったり、道路にある看板の撤去や小型化を行っている。さらに、ビューポイントの再発見と創出のため

の景観探しツアーなどを実施している。

活力ある地域づくりでは、活動団体が中心となって、観光資源、景観資源をどのように生かしていくかを話し合う。そして、より多くの人たちに地域の魅力を広め、地域づくりへの機運を高める。

さらに、活動団体では、連携できる要素を活用したコミュニティビジネスの創設に努め、将来を担う人材の育成をはじめとするユニークな活動や独自の事業、イベントを展開している。こうした事業やイベント、景観ポイントを紹介するホームページの作成や、ビューポイントマップ作り、フォトコンテストなども行っている。

魅力ある観光空間づくりでは、訪れた人に満足してもらうためのきめ細かな地域情報を提供したり、まちで開かれているイベントと連携したり、地域の良さを味わってもらう体験メニューや滞在メニューを組み合わせた、新しい旅の提案などを行っている。

地域の食を楽しんでもらうために、特産品を販売・提供することも観光の1つである。また、ルートを巡るバスを運行したり、地元の人たちだけが知っている絶景ポイントに、臨時の展望台やくつろぎスペースを設け、ボランティアによるガイドを実施し、旅行者に地域の魅力をPRしている。活動団体の景観・地域・観光への取り組みは地域を活気づかせ、訪れる観光客の増加をもたらすと同時に、新たな感動を生み出している。

ウ ルート

ルートという言葉を使っているが、例えば、起点がどこで終点がどこで、ここからここを結ぶ道がルートであると決められたものではなく、こういったエリアの中で活動していこうというものである。

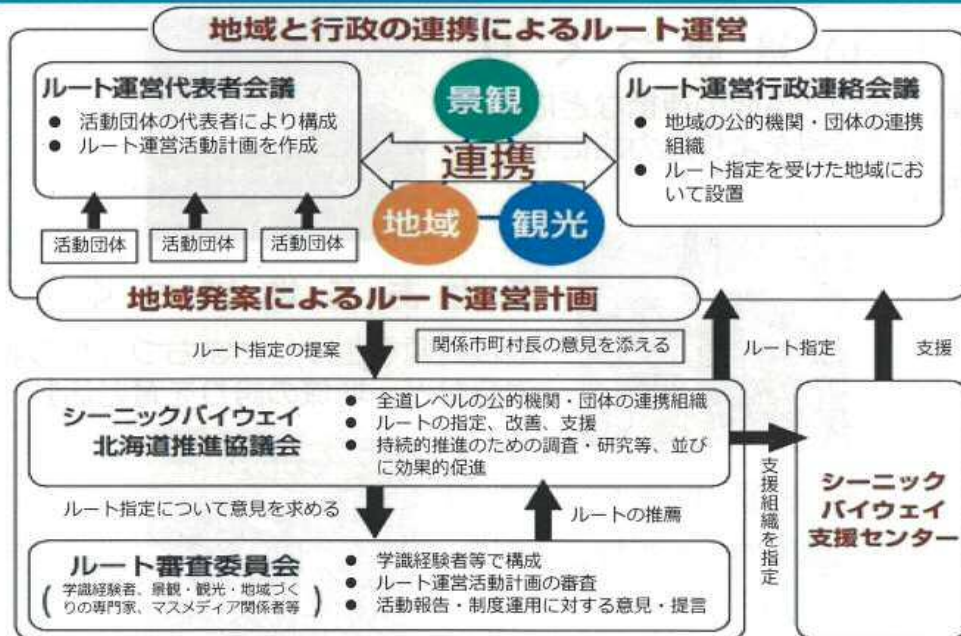
シーニックバイウェイ北海道のルート



(出典：国土交通省提供資料)

エ しくみ

シーニックバイウェイ北海道のしくみ



(出典：国土交通省提供資料)

このシーニックバイウェイの北海道のしくみは、基本的に地域が主体となる。各ルートにおいて、ルートで活動している団体が集まる会議である、ルート運営代表者会議がある。なお、この会議での北海道開発局は、オブザーバー的な立場となる。

一方で、ルートに含まれている市町村を入れたルート運営の行政連絡会議というものもある。この2つが中心となって、地域発案によるルート運営計画が作成される。

そして、北海道全体として、北海道開発局も含めて公的な機関・団体の連携組織であるシーニックバイウェイ北海道推進協議会にルート指定の提案があり、同協議会から、学識経験者等で構成されたルート審査委員会に意見を求め、審査結果により、最終的にルートとして認められる。

この他、シーニックバイウェイ支援センターという支援組織がある。

(4) 東オホーツクシーニックバイウェイについて

ア 東オホーツクシーニックバイウェイについて

北海道シーニックバイウェイのルートの1つであり、視察先である網走市をエリアとするルートが、東オホーツクシーニックバイウェイである。

東オホーツクシーニックバイウェイは、網走市のほか、大空町、清里町、小清水町、斜里町、美幌町という6市町にまたがるエリアとなっている。

なお、ルートの構成団体は、網走市4団体、大空町2団体、清里町7団体、小清水町2団体、斜里町4団体、美幌町3団体の計22団体であり、各市町の観光協会、商工会、観光・地域振興・景観等にかかる任意団体等から構成されている。

イ 活動方針

東オホーツクシーニックバイウェイの活動は、①オホーツク海や知床連山などを美しく見せるための沿道の保全・啓蒙、②鮮明な四季の色彩を見せるための沿道の連携やビューポイントの創出、③風を感じさせるマグネットポイントの創出や滞在メニューの創出・連携、④農業・水産業・林業、地域文化資源の発掘や地域連携による地域情報の発信という方針のもと行っている。

ウ 活動例

(1) ウトロ沿道花の苗植栽

活動例『ウトロ沿道花の苗植栽』

国土交通省

【内 容】 知床峠の玄関となるウトロ市街地にて、うとろナチュラルクラブを中心に地元住民の方々、東オホーツクシーニックバイウェイ連携会議メンバーが、沿道の花壇に花の苗の植栽を行った。

【主 催】 しれとごウトロ・フォーラム21、うとろナチュラルクラブ

【実施場所】 国道334号線斜里町ウトロ市街

【実 施】 H17以降毎年実施

【参 加 者】 50～200名



北海道開発局 網走開発建設部 道路計画課

21

(2) シーニックバイウェイMAPの作成

活動例『シーニックバイウェイMAPの作成』

国土交通省

【内 容】 東オホーツクの魅力を多くの方に広めるため「美しい景観・美味しい店・癒しの温泉」情報を発信し、東オホーツクのファンづくりを目指す。

- 東オホーツク地域の広域的な情報をマップで紹介 (Vol.1～7の7版を作成)
(各ルートのシーニックポイント・情報拠点・ビューポイントパーキング・シーニックデッキ等)
- お勧めのグルメ情報、天然温泉の紹介

【主 催】 東オホーツクシーニックバイウェイ連携会議

【実 施】 H17、H18、H19、H24、H28

【作成部数】 30,000～65,000部



▲シーニックバイウェイMAPVol.7 表面

▲シーニックバイウェイMAPVol.7 裏面

北海道開発局 網走開発建設部 道路計画課

23

(3) シーニックデッキの設置及び補修（現地視察を実施）

活動例『シーニックデッキの設置及び補修』 国土交通省

【内 容】 景観の良い駐車スペースのあるポイントに、シーニックデッキを設置し旅行者などがゆっくりと景色を眺め休憩する事により、東オホーツク地域全体の景観PRをはじめ地域との交流が進んで行く。
また、農産物等の特産品販売等、コミュニティビジネスの創出の可能性も高まる。
更に道路利用者のオアシスとして交通安全に寄与する。

【主 催】 東オホーツクシーニックバイウェイ連携会議

【実施場所】 網走原生牧場観光センター、もことやま山荘、じゃがいも街道、清岳荘、清里町コミット、コスモス街道駐車帯、季風クラブ知床、ウトロポケットパーク、メルヘンの丘ビューポイントパーキング、峠の湯びほろ、フロックス公園、メーメーベーカリー、浜っこ広場、カフェパス

【実 施】 H17以降毎年実施



▲シーニックデッキ(峠の湯びほろ)

北海道開発局 網走開発建設部 道路計画課

24

(出典：国土交通省提供資料)

なお、北海道開発局での説明の後、メルヘンの丘ビューポイントパーキングの現地視察を実施した。



(ビューポイント)



(シーニックデッキ)

(5) シーニックバイウェイ「秀逸な道」

北海道開発局では、世界水準の観光地の形成に向け、地域と道路管理者の協働で、地域の魅力ある道路景観の重点的保全を行う「シーニックバイウェイ『秀逸な道』」の施行を開始している。どの辺りを重点的に景観を見せるスポットにするかを地域の人からヒアリングをした後、区間を決定して、例えば乱立する標識を集約化し、阻害されていた景観を改善するという取組であり、平成29年度から北海道全体で試行している。

(6) 北海道の「道の駅」(現地視察を実施)

道の駅は、長距離ドライブが増え、女性や高齢者ドライバーが増えるなかで、道路交通の円滑な流れを支えるため、一般道路にも安心して自由に立ち寄り、利用できる快適な休憩のためのたまり空間が求められ、誕生した。

全国的にも、道の駅の設置の取組が行われているが、道の駅は、休憩機能(24時間、無料で利用できる駐車場・トイレ)、情報発信機能(道路情報、地域の観光情報、緊急医療情報などを提供)、地域連携機能(文化教養施設、観光レクリエーション施設などの地域振興施設)を有している。

なお、北海道開発局での説明の後、現地視察を行った道の駅「メルヘンの丘めまんべつ」では、平成25年3月に大空町を含む北海道東地域において暴風雪が発生し、吹きだまりによる立ち往生が多数みられた際、避難所としても機能した。

また、北海道には、現在122の道の駅がある。



(直売所)



(防災用品備蓄コンテナ)

(7) 主な質疑応答

(費用について)

Q：シーニックバイウェイに係る費用はどうか。

A：シーニックバイウェイの取組は、地域が主体という言い方をしているので、基本的には、例えば参加する活動団体や自治体が、会費といったようなものを集めて取り組んでいく。また、自主事業のようなものを行い、それによって収益を少し得るといこともしている。

基本的に、例えば国土交通省として、各ルートに何か活動費として幾らか直接配分するようなことはない。

(ルート規制について)

Q：シーニックバイウェイのルートは厳格には設定していないということだが、ある程度設定されたときに、法的な規制、もしくは法的ではなくても事実上の規制はあるのか。

A：特に法律、例えば、道路の何とか法などで、ここはシーニックバイウェイのルートだから、ここはこうしなければいけない、ああしなければいけないといったものは特段ない。シーニックバイウェイの活動に当たっての規約などはあるが、団体は、ルート運営計画を作成して、同計画に基づき取り組むといった話になる。

従って、シーニックバイウェイのルートになったから、そこは何か、法律上何かしなければいけないといったような規定は、今のところない。

(地域の人の参画について)

Q：地域の方のやる気といったものを、まず引き出したからこそその結果だと思いが、参画を促すための最初の取組の入り口は、何か。

A：地域の人にとっては、例えばこういうことを行くと、いわゆる北海道開発局としてお墨付きとまでは言わないが、それによって、ガイドブックに掲載されたりすることで、周知されて、地域に来てもらえるといったメリットをおそらく感じているのではないか。